

1 実践の概要

タイトル	地域防災体制づくりのためのコミュニティ形成から実践まで（大館市立第二中学校）
概要	<p>所属町内を単位として、防災意識の高揚と組織形成及び実践力の向上を総合的に推進する年間を通した取組</p> <p>期日：平成26年4月1日（火）～平成27年3月31日（火）</p> <p>場所：大館市立第二中学校及び学区内各町内</p> <p>時間帯：総合的な学習の時間、休業日</p> <p>参加者（延べ人数）：生徒560名、教職員85名、保護者30名、小学生110名、地域住民1,000名以上</p>

2 実践内容

実践方法と進め方	工夫した点○ 苦勞した点●
<p>1 主題</p> <p>助けられる人から助ける人へ ～アヤメの里の防災リーダーを目指して～ 地域防災は地域の人々の日ごろのつながりの中で展開され、災害発生時は、そのつながりが大きな効力を発揮する。本実践は高齢化が進む地域の中で、戦力として期待される中学生が中心（リーダー）となって、地域防災の体制づくりを推進しようとする試みである。</p> <p>2 防災活動を支えるコミュニティの形成</p> <p>(1) 地区運動会への参加協力 －6月8日（日）：小学校グラウンド 地域主催運動会に参画し、住民の一人としての自覚を高める。</p> <p>(2) 町内祭典への参加協力 －7月15日（火）：各町内 各町内ごとに実施される祭典行事の維持・保存に寄与する。</p> <p>(3) 交通安全聖火リレーへの参加協力 －10月5日（日）：地域全体 地域行事で積極的に活動する中学生の姿を住民に周知する。</p> <p>(4) 郷土料理の調理と会食 －10月17日（金）：学校 地域住民の指導によるきりたんぼの調理、会食を行い交流を深める。</p> <p>(5) 地域文化祭への参加協力 －11月9日（日）：地域公民館 地域住民の一人として地域文化祭を盛り上げる。</p> <p>3 防災の知識と技能の獲得</p>	<p>【本校が考える地域防災の構造】</p>  <p>【地区運動会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○運営役員として陸上部員を派遣 ○地域（釈迦内）音頭の踊り手として学芸部（文化部）員を派遣→地域住民の指導により事前練習を実施  <p>【町内祭典】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○祭典参加の時間確保（当日は休業日） ○町内からの生徒派遣願いの受理と参加町内の調整 ●生徒数の減少により、所属の生徒だけでは祭典運営が困難になっている町内が増加 <p>【郷土料理の調理・会食】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○婦人会の協力による事前準備 ○沖縄県嘉手納中生徒との交流 ●生徒全員分のきりたんぼを焼き上げるための用具の準備  <p>【地域文化祭】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○3年生が参加 ○学校祭合唱コンクールで発表した曲を公演

- (1) 年3回の防災避難訓練
 - －学期に1回ずつ：学校
 - ・地震1、火災2（通常時、積雪時）
 - ・避難路の点検と整備（除雪）
- (2) 救命救急講習
 - －8月2日（土）：体育館
 - ・指導者要請（消防署員）
 - ・AEDの操作の仕方
 - ・心肺蘇生の仕方
 - ・けが人搬送の仕方

- 【防災避難訓練】
 - 緊急地震速報の受信を想定した避難訓練
 - 積雪時の避難訓練による避難路の確保
 - 防災用具（ヘルメットと軍手）の常備
- 【救命救急講習】
 - 消防署員による指導
 - 地域住民、保護者、生徒、教職員の参加
 - 修了証の授与
 - 参加人数に応じたAED機材の準備



4 地域防災活動の計画と実践

- (1) 地域防災会議（防災活動年間の計画）
 - －7月15日（火）：総合的な学習の時間
- (2) 防災活動の打ち合わせ（年2回）
 - －長期休業前：自治会長宅訪問、電話
- (3) 地域防災活動の実践
 - －長期休業中：各町内ごと
 - ・夏休み、冬休み各1回



- 【地域防災活動】
 - 自治（町内）会長等との防災計画立案会議を実施
 - 夏季の防災活動は町内ごとに様々な活動が展開（写真は安否札の配付の様子）
 - 冬季は防災施設等の除雪作業

協力・連携先の分類	団体名・組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係	・ 積迦内小学校	・ 防災活動の周知と参加呼びかけ（年々増加）
保護者・PTA関係	・ PTA体育厚生部	・ 救命救急講習の運営
地域組織	・ 積迦内地区町づくり協議会 ・ 積迦内地区婦人会 ・ 積迦内地区各自治（町内）会 ・ 行政協力員協議会 ・ 積迦内の子どもを育てる会 ・ 積迦内交通安全協会	・ 町づくり協議会が中心となって町内会長の協力を後押し ・ 学校報の学区全戸への配付により防災活動を周知 ・ 学校報の配付は、行政協力員協議会が協力を後押し
国・地方公共団体・公共施設	・ 大館市消防署北分署 ・ 積迦内公民館	・ 防災計画の立案での助言及び救命救急講習の指導（大館消防署北分署）

3 成果と課題

成果	<ol style="list-style-type: none"> 1 町づくり協議会のような地域の中心組織の存在が、各諸団体との連携を円滑にしている。地域全体で日常的なあいさつなど活発なコミュニティが形成されてきた。 2 各町内ごとに防災活動のアイデアが多様になってきており、防災意識が高まってきたことが実感できる。 3 長期休業日の防災活動に小学生が多数参加してくれるようになってきた。
課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 保護者の参加を増やすことが課題である。 2 学校統合により地域が広域になる。新たなコミュニティ形成を始める必要がある。 3 平成24年に作成した防災マップを地域の実情に応じて見直し、修正を加えていく取組が必要である。
今後の継続予定	<ol style="list-style-type: none"> 1 平成27年度に近隣の中学校2校と統合し、北陽中学校として生まれ変わることにしているが、本校が進めてきた防災活動は新設校においても推進する予定である。 2 新しく編制される地域との連携においては、これまで各学校で進めてきた活動をそのまま踏襲するには困難も予想されるため、地域連携委員会を立ち上げ調整を図る。